

## プレアクト

### ■シナリオデータ

プレイヤー: 3~4人  
プレイ時間: 3~5時間

### ■ストーリー

よくある技術競争の一環として、イワサキの兵器開発部門では“GUNS OF PARTNER(以下『ガンズ』)”と仮称された拳銃と日本刀が開発されていた。

これはIANUSと直結することでユーザーの技能を何倍にも引き上げる“ティルヴィング”(『GXD』P117)のような武器である。しかしティルヴィングと異なるのは、武器を内蔵のパディによって制御するのではなく、ユーザーの脳の生体部分にバイパスを生み出して無理やり歴戦の達人へと仕立て上げることだった。

これは脳への負担も然るものながら、使用を続けると攻撃的な衝動を制御することが出来なくなり、見境なく殺戮を始めてしまう副作用が存在した。そして副作用改善の見込みがないと判断した上層部は、プロジェクトの凍結を決定する。

その決定に納得のいかなかった開発者の須藤貴一は千早へ繋ぎを付け、2種類の試作品(とニュースの切り抜き程度の内部機密)を手土産に、自らを売りに出した。これに乗った千早は交渉兼護衛役として『クグツ①』を待ち合わせへと送り込み、イワサキも捜索隊として情報処理局の『クグツ②』を送り出す。

それとは別にもう1人、ガンズの開発メンバーである如月丈也もN◎VAへと来日していた。目的は逃げ出した須藤を確保してガンズを自分の物とすること。研究中に興味半分拳銃タイプのガンズと結線した如月は、誰も気づかぬうちにサイバーサイコと化してしまっていたのだ。

如月は須藤の思惑を悟るや否や、ガンズを自分の物にできる絶好の機会と判断。関係者を皆殺しにして研究所を爆破した後、自分も死んだように見せかけてN◎VAへと渡る(《完全偽装》と《不可蝕》)。須藤からガンズを奪って逃亡すれば、あとは作業員同士で勝手に潰し合うやむやみになるだろうという腹だった。

そこで、誰もが予期しないイレギュラーが発生した。

須藤がアサクサに到着した直後、ストリートキッズのジルが日本刀タイプの入ったアタッシュケースを盗ってしまったのだ。おまけに間が悪く、ジルを追いかけ住宅街の奥地に入り込んだ須藤は如月に捕まり、もう片方の拳銃タイプのガンズを奪われた挙句に惨殺されてしまう。

クグツたちは路地裏で須藤の変死体を発見し、如月はもう1つのガンズを探してアサクサで殺戮を開始し、そしてジルはそんな如月から身を守ろうとして怪しげな日本刀と結線する。

このアクトはキャストが暴走する2人を制止しつつ、2種類のガンズを確保してその処遇を決定することで終了する。

### ■アクトトレーラー

キャスト作成前に、以下を読み上げること。

タタラがイワサキから千早へ身売りする  
ストリートキッズが間抜けからケースを露れ盗る  
クグツたちが機密を争い殺しあう  
サイバーサイコがアサクサで暴れまわる  
トーカーが目隠く死の匂いを嗅ぎ付ける  
フリーランスが金にならないモノのために武器を抜く

どれもよくある珍しくもない日常の風景

……何も珍しくはない、あなたと銃の日常

トーカーN◎VA The Detonation

『GUNS OF PARTNER』

かくて運命の扉は開かれる

### ■キャストの作成

ハンドアウトを印刷して切り離し、プレイヤーに配布すること。3人でプレイする場合はトーカー一枚が省略される。

このアクトは難解な謎解きやN◎VAを股にかけた陰謀などが全く存在しない代わりに、キャスト間で対立が起こる可能性を残したシナリオとなっている。

RLはストーリーの進行状況だけでなく、プレイヤーの思惑の変化をきちんと把握する必要がある。そのため、何か進展が起こる度にお互いのスタンスを確認したり、結論としてキャストに何をさせたいのか、などをプレイヤー同士で話し合う機会を持たせた方が良い。

その結果、クグツ同士で戦闘が発生したり、クライマックスでPC1が他のキャストと敵対化することになったのなら、RLはそれを優先してかまわない。

最終的に全てのプレイヤーが納得して“楽しめる”方法を採用すること。

## ●カタナのキャスト

『カタナ』のキャストは所謂「PC1」の立場であり、このアクトの中心的人物として位置付けられている。基本フリーランスの荒事屋であれば、スタイルが変更されてもかまわない(ただし物理攻撃系のキャストの方がシナリオ上自然である)。

PLIによっては、ジルを守るためにアクト終盤で他のキャストと敵対することを選ぶかもしれない。その場合は一旦シーンをストップし、各PLがそれぞれどんなエンディングを望んでいるのかなどを一度話し合ってもらいたいだろう。

綺麗にアクトをまとめようとするなら、『クグツ』の《完全偽装》や『トーカー』の《暴露》などがキーとなる。事件の隠蔽と引き換えに『カタナ』が千早やイワサキの作業員となる展開も悪くないだろう。勿論、力及ばずジルが社会的に抹殺されてしまうエンディングも実にN◎VA的だ。

## ●クグツのキャスト

このアクトでは『クグツ』のキャストが2人存在する。それぞれ敵対する組織の作業員であり、ハンドアウトもキャストがいがいみ合うことを前提としている。

しかし、だからと言ってアクト内でいがいみ合い足を引っ張り合うことだけがPLの目的ではない。『クグツ』のPLにとって、このアクトを楽しむためのポイントは、ざばりにエンディングまでにこの2人の関係をどのように落とすのかだ。

互いに痛み分けて再戦を誓い合うのか、敗れた片方が復讐心を胸にたぎらせるのか、はたまた許されざるラブロマンスが始まってしまふのか。必要なら舞台裏中にPL同士でメタ的な相談をさせるといいだろう。

またたとえ争うことになっても、企業作業員らしく(社会)や《完全偽装》などの情報戦でケリをつけさせるのが、RL的には綺麗な落とし所となる。

## ●トーカーのキャスト

『トーカー』のキャストは所謂「PC5枠」であり、居ても居なくてもアクトの進行にさして影響を与えないキャラクターとなっている。その役割に相応しく、『トーカー』には終始トリックスターとして自由に振舞ってもらいたいだろう。

特に《暴露》は他のキャストのエンディングを大きく揺るがす力を持っているため、それを盾にPC1のように振舞うことも不可能ではない。もしそれをやり過ぎだとRLが感じたのなら、アルファ=オメガに制止してもらおうこと。

## ●推奨スタイル

- ①カタナ:フリーランスの荒事屋
- ②クグツ:千早重工査察部後方処理課第三班
- ③クグツ:イワサキ情報処理局
- ④トーカー:フリーランスの(もしくはどこかに所属している)トーカー

## ●必要な防御系神業

本シナリオではキャストが神業だけで死亡するのを防ぐため、3個以上の防御系神業が必要だと想定している。ただし、アクトの状況やキャストの戦略次第ではより少ない神業で危険回避することも可能だ。

なお、リサーチフェイズは神業を使用せずとも進行できるが、情報収集系神業があればより素早く情報を集めることもできる。

## ■キャスト間コネクション

以下の順で取得すること。

『カタナ』→『クグツ①』→『クグツ②』→『トーカー』→『カタナ』

取得するルートはできるだけ交友的・事務的なものの方が好ましいが、RL・PLが共にN◎VAに慣れており、お互いの同意が得られている状況であれば、あえて敵対的な関係を設定してもかまわない。

## シナリオハンドアウト

キャストには以下の設定がつくことになる。セッション前にプレイヤーとよく相談すること

『カタナ』:フリーランスの荒事屋、ジルの保護者  
 『クグツ①』:千早重工査察部後方処理課第三班  
 『クグツ②』:イワサキ情報処理局  
 『トーカー』:フリーランスのトーカー

### 推奨スタイル:カタナ

コネ:ジル 関係:腐れ縁、目が離せない子供

ジルはキミに付きまとっているストリートキッズだ。事あるごとにキミの強さを賞賛しながらも、隙を見てははななしの報酬をくすね盗ろうと企んでいる悪ガキでもある。ただ、何度追いかけても諦めない忍耐力と逃げ足の速さだけは、評価に値するのかもしれない。

しかし何の因果か、今日はキミの方が彼女を探して歩いていた。キミがようやくジルを見つけたとき、彼女は不釣り合いなアタッシュケースを抱えていた。

PS:ジルとの用件を済ませる

### 推奨スタイル:クグツ①

コネ:クグツ② 関係:好敵手、厄介なニンジャ

後方処理課に所属しているキミに突如の呼び出しがかかった。イワサキの研究所から抜け出してきたタタラを保護し、所持品と共に無事にアーコロジーまで護衛しろという任務である。何も難しいことなどない、キミにとっては良くある雑務のひとつだ。

きっと今度もまた、あのニンジャが任務を妨害してくるに違いない——キミは武装を整えながら、心のどこかでクグツ②との再会を予感していた。

PS:千早に利益をもたらす

### 推奨スタイル:クグツ②

コネ:クグツ① 関係:好敵手、厄介なサムライ

情報処理局に所属しているキミに突如の呼び出しがかかった。イワサキの研究所から逃亡したタタラを拘束し、所持品と共にLA\$Tまで連れ戻せという任務である。何も難しいことなどない、キミにとっては良くある雑務のひとつだ。

きっと今度もまた、あのサムライが任務を妨害してくるに違いない——キミは武装を整えながら、心のどこかでクグツ①との再会を予感していた。

PS:イワサキに利益をもたらす

### 推奨スタイル:トーカー

コネ:アルファ=オメガ 関係:ニュースソース、トラブルメーカー

キミは別にアルファ=オメガのことが嫌いというわけではない。彼女の持ち込む騒動がキミの貴重な収入源であることは否定できないし、あの小動物のような人懐っこさもウエットすぎるが悪くはない。ただもう少し、時と場合を選んで欲しいだけなのだ。

しかし、「電脳の救世主様」は今日もこちらの都合などおかないし、「あの人を追い掛けて！」と、ひったくりにあったタタラを指差して絶好調(お願い)してくるのだった。

PS:他のトーカーを出し抜いて特ダネを手に入れる

## オープニングフェイズ

### ●クグツ②: 死して屍拾う企業なし

登場: 他キャストは登場不可

◆解説

イワサキサイドのオープニング。『クグツ②』はイワサキグループの社員だが、ここではLA \$TではなくN◎VAで活動していることを想定している。

◆描写

仕事が終わって900秒。ようやく自室へ戻ったキミは、DAKのセキュリティを確認しながら装備を外して一息吐こうとしていた。

キミの上司である服部半蔵(『WOR』P66)から秘匿回線呼び出しがかかったのは、ちょうどその2秒後のことだった。

◆セリフ

▼服部半蔵

「次の任務だ。至急N◎VAアサクサへ向かえ」

「兵器開発部門の須藤貴一が、開発中止になった試作品の武器を持ち出し、LA \$Tの研究所から逃亡した。おそらく早急に身売りするつもりなのだろう」

「須藤本人は回収の必要があるほど優秀なタタラではない。しかし、奴は逃亡の直前に研究員を皆殺しにして研究所を爆破した。須藤にはそんな技量も度胸もない、となれば爆破も早急の作業と見て間違いないだろう」

「我らにも面子がある。このような不始末をトーカーどもにも嗅ぎつかれるわけにはいかん。須藤と試作品を早急に渡すな。必要なら貴様の一存で“処分”してもかまわん。任務は理解できたな——では行け」

◆結末

任務達成により得られる報酬点はない。プレアクト時の収入が『クグツ②』に支払われている給料とする。『クグツ②』がアサクサへ出発したらシーン終了。

### ●クグツ①: 人命非優先

登場: 他キャストは登場不可

◆解説

千早サイドのオープニング。千早重工本社のシーンを想定しているが、『クグツ①』が望むならポケットロン等にコールが入ったことにしてもいい。

◆描写

一仕事終えて千早アークロジエへと戻ったキミは、その直後に班長の小上紫乃(『WOR』P67)からの呼び出しを受けた。

仕事に何かミスでもあったのだろうか？ キミは装備を外す暇もないまま、とりあえず班長のデスクへと足を向けた。

◆セリフ

▼小上紫乃

「次の仕事ですわ。至急N◎VAアサクサに向かってください」

「現在、イワサキのタタラが研究中の試作武器を持ってN◎VAへ向かっています。あなたの任務は彼がイワサキのエージェントでないかを確認した後、品物を無事アークロジエまで運ぶことです」

「タタラの名前は須藤貴一。凡庸な一技術者にすぎませんが、彼の持っている試作品には、我々が出向くだけの価値があります。情報処理局もすでに動き始めていることでしょう。速やかに任務を達成してください」

「それともひとつ。須藤の所属していたLA \$Tの研究所が、数時間前、何者かに爆破されたという未確認情報が入っています。もしかしら、千早・イワサキ以外の第三者の意図が働いているのかもしれないわ」

「だからこそ、今回の火種は全面的にあなたに託すと決めました。班長として、そして貴方の一友人として——期待しておりますわよ？」

◆結末

任務達成により得られる報酬点はない。プレアクト時の収入が『クグツ①』に支払われている給料とする。『クグツ①』がアサクサへ出発したらシーン終了。

### ●カタナ: ジル・ザ・ニューロキッズ

登場: 他キャストは登場不可

◆解説

『カタナ』の自室にジルが遊びにやってくる。基本的に無理やり上がりこんでくるが、『カタナ』の住居が[セ:13]以上の場合は、インターホンを連打して自分を家に上げるようにしつこくせがむ。

また、ジルは『カタナ』に対して小遣いをくれるようにおねだりしてくる。それに対する受け答えで「結末A」と「結末B」のどちらかに分岐し、[ジルフラグ](後述)が変化することになる。

◆描写

久しぶりの休暇。キミが自室でくつろいでいると、エアボードを抱えたジルが窓を開けて乗り込んでくる(2・30階程度の高さなら余裕で駆け上がってくる)。

ジルは悪気の欠片もみせないまま、陽気な笑顔でキミに近況を尋ねてきた。このニューロキッズに対して、キミはいつも通りの対応で出迎えた。

◆セリフ

▼ジル

「やっほー『カタナ』、まだ生きてたかー？」

(窓から入るなど文句を言う)「仕方ねえじゃん。あたしの偽造IDじゃ、DAKが反応してくれないんだから」

「で、最近調子はどうよ。何か儲け話でもあったか？ なあなあ聞かせてくれたっていいじゃん、減るもんじゃないんだし」

「あたし？ あたしは相変わらず変態相手にポロ儲け——って、あたしのことなんて別にどうだっていいだろ！ そんなことより、財布が潤ってるんだったらあたしに小遣いくれよー。ちょうど買いたいパーツがあるんだ♪」

◆結末A

ジルにカッパーやドラッグなど何らかの施しを行った場合の結末。

それまで生意気盛りの受け答えをしていたジルが、一転して戸惑った表情で「え、うそ、本当にいいの？」「ええとその。い、今さら返せて言ってもダメだからな！」などとうろたえる。最後には赤面して「……ありがとう」と呟き、窓から飛び出して行ってしまう。そして、床にはジルのシルバーが(報酬点が増える)。

RLは、『カタナ』にPSの要件とは「ジルにシルバーを届けること」だと説明し、シーンを終了する。また、[ジルフラグ]が+3される。

◆結末B

ジルのおねだりを突っぱねたり、ジルのことを邪険に扱った場合の結末。

お願いを聞いてくれない『カタナ』にジルは憤慨(逆ギレ)し、「ケチ！ おまえなんか夜叉に斬られて死んじまえー！」と叫びながら窓から飛び出す。そしてふと気がつくと、置いておいた自分のシルバーが消えている(報酬点も減る)。

RLは、『カタナ』にPSの要件とは「ジルからシルバーを取り返すこと」だと説明し、シーンを終了する。また、[ジルフラグ]が-3される。

### ●トーカー: 救世主はペンよりも強し

登場: 他キャストは登場不可

◆解説

アサクサにて、須藤がジルにケースの片方を盗まれる。それを目撃した『トーカー』は、アルファ=オメガの発破を受けて須藤を追いかけ始める。以降、エキストラとしてアルファ=オメガを連れて歩けるが、判定などの役には立たない。

ちなみに、アルファ=オメガは[本来の肉体]を持たない[ウェブゴースト]だが、このアクト中は強化現実を操作することであたかもそこに実体があるかのように振舞っている(ただしウェットには見えないし触れないので注意)。

◆描写

ネタもなければキャッシュもない。そんな平和で絶望的なアサクサの屋下がり。キミの隣には何故かアルファ=オメガが付きまわっていた。

彼女の言動から察するに、どうやらアルファ=オメガはキミとの“デート”を気取っているらしい。またぞろ、どこかのホロアニメの影響でも受けたのだろう。

と、キミたちは通りがかった喫茶店が妙に騒がしくなっていることに気づいた。

◆セリフ

▼アルファ=オメガ

「全ウェブ界で話題騒然のアルファ=オメガちゃんをヒトリジメだなんて、ここがウェブだったら2秒でイーター・プログラムにタコなぐりされちゃうのですよー」

「ねえねえ、これはどうですか？ (腕にしがみ付き)あててんのよー」

(ブシューっと頭から煙)「ん〜、“ツンデレお嬢様”ってムズかしいのです」

「目が合うと顔を赤らめてはにかむ)「えへへへへ〜♪」

「あれ？ いったい何のさわぎでしょうか？」

「ムムム、なんかあのケースの中からビビビッとキケンな電波が来たのです。今すぐあのおじさんたちを追いかけてください。いいから急いで！」

▼ジル

「アッカンベ〜だ！ 悔しかったら追いついてみやがれ！」(エアボードで退場)

▼須藤貴一

「ああ、ボクのケースを！ 返せ、このニューロキッズが！」

「くそっ、釣りはいらん！」(キャッシュを置き、もう片方のケースを抱えて退場)

◆結末

ケースのセキュリティの高さやキャッシュでの支払いなど、ただの観光客にしては行動が不自然なことを伝え、トーカーが須藤を追いかけたらシーン終了。

## リサーチフェイズ

### ■クライマックスの条件

如月丈也の存在を見つけ出し、暴走する如月を倒してガンズAを確保する。

### ●クグツ①: 待ち人来たらず

条件: リサーチフェイズの最初のシーンに発生

登場: (社会: N◎VA、ストリート、企業) 10

#### ◆解説

待ち合わせ場所から須藤が消えていることに気づいた『クグツ①』が、須藤の捜索を開始するシーン。

喫茶店の店員に尋ねるなどすれば、須藤がジルを追いかけて住宅街へ向かったことは教えてくれる。それ以上の探索は情報収集が必要。

#### ◆描写

約束の時間から10分が経過したが、アサクサの喫茶店に須藤らしき男の姿は現れなかった。まさか、もうイワサキに消されたとも思えないのだが……

#### ◆セリフ

##### ▼店員

「ああ、そのお客さんならさっきまでそのテラスに座ってましたよ。なんだか落ち着かない様子でオドオドと通りを見回していましたが、それが突然叫んだかと思ったら、キャッシュを置いて飛び出していってしまったんです」

「ストリートキッズに置き引きでもされたんじゃないですか？ この辺って検問のすぐ傍だから、よく観光客が狙われるんですよ」

「なんかアタッシュケースみたいなのを持ってたような気がしますけど、それ以上のことは私にもちよつと……」

#### ◆結末

『クグツ①』が須藤を追いかけて移動(情報収集)を開始したらシーン終了。

### ●カタナ: 開かずのケース

条件: [ジルの居場所]へ移動する

登場: (社会: N◎VA、ストリート) 10

#### ◆解説

『カタナ』がアタッシュケースを弄っているジルを見つけ出す。もし別なシーン中に判定したのなら、そのままこのイベントを挿入してもいい。

アタッシュケースには頑丈なセキュリティがかけられ、ちよつとやそつとでは空きそうにない。『カタナ』たちが(電腦)で開封しようとしても、ジルはケースが自分の物だと主張し、絶対にキャストに触らせたりしない。

『クグツ』や『トーカー』が場に居ると、ジルは異様に警戒して『カタナ』の傍に寄り添うようになる。それでもなお『カタナ』以外のキャストがジルを問いただそうとすると、怯えたジルはシーンから逃走してしまう。

#### ◆描写

キミがアサクサの路地でようやくジルを見つけたとき、彼女は地面に腰を下ろして不釣合いなアタッシュケースを弄り回していた。

#### ◆セリフ

##### ▼ジル

「ん～、結構プロテクト固いなあ。こうなったら鍵ごとぶっ壊しまうか……」

(声をかける)「きゃあ！？ って、な、なんだ『カタナ』か。驚かせんなよな！」

「これ？ へっへ～、アサクサでトシなおっさんからちよつとね」

「なんかプラチナなオーラを感じない？ 中にキャッシュがどっさり、とかさ」

「悪いけど、これはもうあたしのだかな。いくら『カタナ』でも渡せないね」

(シルバーを返す)「そんなことのためにあたしを探してたの？ け、結構暇なんだな(戸惑った様子でモジモジと目を逸らす)」

(シルバーを返す)「そんなことのためにあたしを探してたの？ ……結構暇なんだな(呆れた様子で半眼になりながら嘆息する)」

(クグツに対して)「大企業のクグツ様が、あたしみたいな底辺に何か用？」

(トーカーに対して)「んだよ。今さらあたしならなんか撮って何か楽しいのか？」

#### ◆結末

『カタナ』のPSや言動によって対応は多少変わるが、ジルはわりと素直にシルバーのやり取りをしてくれる。このやり取りで[ジルフラグ]は変化しない。

会話が一区切りつくと、ジルがケースを持って退場しシーン終了。情報「ジルのケース」が調査可能となる。

それ以外でも、他のキャストがジルに詰め寄ったアタッシュケースを強引に奪おうとすると、ジルは即座にシーンから退場する。もしキャストがこれを妨害しようとした場合、ジルに「脱出」や「ブリーズ！」を使用させること。

### ●クグツ②: タタラは何も語らない

条件: [須藤の居場所]へ移動する

登場: (社会: N◎VA、ストリート) 10

#### ◆解説

アサクサの路地裏で銃で滅多撃ちにされた須藤を発見する。これは[仮死]扱いであり、このシーン中に治療できれば奇跡的に一命を取り留める。ただし、須藤がアウト中に目覚めることはない。

須藤に[真実]などの神業で供述を求めた場合、如月の《不可蝕》が打ち消されたものとして扱い、情報「如月丈也」が調査可能となる。以降のイベント管理が難しいと感じるなら、RLはここでの神業の使用を却下してもかまわない。

なお、クグツたちの任務は試作品の確保であって須藤は二の次なので注意。もし須藤の処遇で揉めるようなら、RLからその点を再度示唆すること。

#### ◆描写

キミが追いついたときには手遅れだった。寂れたビルに囲まれた薄暗い路地裏で、須藤貴一は二目と見れない姿で朽ち果てていた。

全身の至る所に銃痕が穿たれ、地面はおびただしい量の血液で赤く染まり、引き撃った手足はいまだに痙攣を繰り返している(つまりまだ蘇生可能だ)。

須藤の傍に転がっていたケースには、すでに何も入っていなかった。

#### ◆セリフ

##### ▼須藤

「……」(痙攣するだけで呼びかけには一切答えない)

(神業を使用した)「……きさ……らぎ」

#### ◆結末

描写の後、『クグツ②』が今後の方針を決定したらシーン終了。

このシーンには『クグツ①』や『トーカー』も登場することが想定される。RLとしては、キャスト間で謎の第三者がいるという共通認識を生み出し、一時休戦の流れを生み出すのが理想となる。

もし收拾がつかないと感じたときは、一旦シーンを区切って次のイベント「見境なき殺人」を発生させたり、仲介役としてクグツの上司やアルファ・オメガから試作品の捜索を優先するよう指示を出すこと。

### ●トーカー: 見境なき殺人

条件: 「タタラは何も語らない」の次のシーンに発生

登場: (社会: N◎VA、ストリート、メディア) 10

#### ◆解説

アサクサで連続殺人事件が発生していることをキャストたちに伝える。他のシーンに挿入したり、完全なRLシーンとしてもいい。

この裏では後述のイベント「ガンズ・オブ・パートナー」が発生していることになる。以降、クライマックスまで『カタナ』はジルと一切連絡が取れなくなる。

#### ◆描写

須藤の死体を発見して間もなく、ポケットロンやIANUSの配信ニュース、街頭DAKなどなど、トロンというトロンから一斉に臨時ニュースが割り込んでくる。

先ほどからアサクサで連続殺人事件が発生していることを、現場のトーカーが死体を映しながら伝えている(リアルタイムでモザイク処理されている)。

#### ◆セリフ

##### ▼エキストラのトーカー

「ご覧ください、この見るも無残な死体を。刃物によって執拗に切りつけられた形跡ように見受けられます。あ、あちらにも倒れている若者の姿があります。彼はまだ無事なのでしょうか？ (助けたりはしない)」

「誰が、何故、このような凶行に及んでいるのかはまだ分かっていません。しかし、サイバーウェアの移植により精神に異常をきたした犯罪者、所謂“サイバーサイコ”による犯罪は近年増加の一途をたどっています」

「これに対して、IANUSメーカーの最大手である千早グループやN◎VA行政は問題を放置したまま。対策を講じずにただ無作為にサイバーウェアの販売・移植を行う企業の体質には、以前から疑問の声が上がっており……」

(カメラの外へ目を向ける)「ん？ あんた誰？」

#### ◆結末

何発も銃声が鳴り響き、カメラが真っ赤に染まったところで映像が途切れる。現場に向かうと死体がひとつ増えている。場合によっては[知覚]などで「アサクサ連続殺人事件」について調べてもかまわない。

ニュースを見たキャストたちが今後の方針をまとめたらシーン終了。情報「アサクサ連続殺人事件」が調査可能となる。このシーンに登場していなかったキャストも、舞台裏でニュースを目撃していたことにしてかまわない。

## ●トーカー:ガンズ・オブ・パートナー

条件:[発端フラグ]を取得する

登場:(社会:N◎VA、ストリート) 10

### ◆解説

情報「辻斬りの少女」を調査して[発端フラグ]を得ることで、ジルが如月に襲われてガンズを装備するまでの映像データを入手することができる。ただし、《不可蝕》の効果によってフード男の正体を解析することはできない。

基本的には街頭カメラ等の映像を解析したと演出される。もし場に相応しい演出が思い浮かばなかったのであれば、アルファ=オメガがアマテラスからの衛星映像をリークしてくれたことにするといいたいだろう。

### ◆描写

入手したデータを再生すると、薄暗いアサクサの路地裏が映し出された。そこにいるのは、アタッシュケースを抱えエアボードを走らせているジル。その前に突如フードを目標に被った男が飛び出し、慌てたジルはバランスを崩してボードから派手に転倒した。

その衝撃でケースが壊れ、刃が収納され柄だけの日本刀が地面に転がる。フード男はドラッグに酔った口調でブツブツ呟くと、銃を構えてジルに飛び掛った。それに怯えたジルは反射的に刀と無線結線し、刃を伸ばしてすれ違いざまに男の右腕を斬り飛ばす。

腕を失ったフード男はその場を離れ、ジルは頭を押さえてひざまずいた。

### ◆セリフ

#### ▼ジル①

「いってえー！ おいこら、いったいどこに目を付けてんだよ、バカ！ ……って、なんだこりゃ？(柄を拾い上げる)」

「これはあたしが捨てたやつだ。なんであなたにあげなきゃなんないのよ」

(銃で狙われる)「え、ちょっとタンマ。冗談だろ？ きゃああああー！」

#### ▼フードを被った男(如月丈也)

「それはオレの刀だ。それはオレの力だ。寄越せ」

「寄越せ、寄越せよ。ぜんぶオレによしやがれ！」

「ぎゃあ！ オ、オレの腕があ！」(シーンから退場する)

#### ▼ジル②

「なにこれ、体が勝手に動いて」

「ひい！ やめろ、あたしの頭を書き換えんな！ なんだよこの刀、なんでリンクを解除できないんだよお！」

「やめて……こんなの……あたしが……消えちゃう……」

([ジルフラグ]がプラス)「『カタナ』……助け……」

([ジルフラグ]がマイナス)「そうだよな。怖いオナはぜんぶ斬らなきゃ」

### ◆結末

映像が終わるとシーン終了。如月は右腕を[腕部損傷]する。

如月の《不可蝕》の打ち消しには様々なパターンが想定できる。《買収》《暴露》《制裁》などでフード男の情報を求めたとしてもいいし、《タイムリー》《守護神》《電脳神》などで映像の解析に成功したことにしてもいい。

なお、有効な神業を所持していないと、後述のイベントによって如月の《不可蝕》は自動的に解除される。神業を使用すべきか否かで悩み込んでしまうようなら、RLはその情報を伝えてもかまわない。

## ●クグツ①:サイコ・サイバー・サイコ

条件:[真相フラグ]を取得する

登場:(社会:N◎VA、ストリート) 10

### ◆解説

情報「アサクサ連続殺人事件」を調査して[真相フラグ]を得ることで、須藤が襲われた直後の映像データを入手することができる。ただし、《不可蝕》の効果によって犯人の正体を解析することはできない。

シナリオではイベント「ガンズ・オブ・パートナー」が先に発生することを想定しているが、こちらのイベントが先に発生したとしても問題はない。

### ◆描写

入手したデータを再生すると、見覚えのある路地裏が映し出された。

そこにいるのは、アタッシュケースを抱え息を切らせた須藤。その須藤が辺りを見回していると、背後から須藤に忍び寄り影が見えた。

### ◆セリフ

#### ▼須藤貴一①

「はあ、はあ。ちくしょう、あのニューロキッズはいったいどこに行ったんだ！」

(如月の影に気づく)「誰だ！？ ……な、なんだキミか」

「待て、なぜ私がN◎VAに来ていることを？ 本社の差し金か！ いやだ、ボクはあんな人を見る目がないエグゼクどものために働く気はないぞ！」

#### ▼フードを被った男(如月丈也)

「どうも、須藤主任。そのケースを大人しくこちらに渡してください」

「本社？ ハハハ、そんなこともうどうだっていいんですよ。俺はその武器さえ、ガンズ・オブ・パートナーさえあれば、もうそれだけで！」

(須藤からケースを奪う)「これだ、この力だ！ 力さえあれば何だってできる、力さえあれば何にだってなれる！ この力で俺は、オレは、おれは——」

「で、もう片方のケースはいったいどこにあるんですか？」

### ▼須藤貴一②

「キミはまさか、それと結線したことがあるのか。なんてバカな真似を」

「やめろ、こっちへ来るな！ もう片方はニューロキッズに盗られたんだ！ ボクが隠しているわけじゃない！ ホントだ、信じてくれ！」

「ひぎゃあああーっ！」(銃で撃たれる)

### ◆結末

映像が終わるとシーン終了。

また、[発端フラグ]と[真相フラグ]の両方取得することで、神業を使用することなく如月の《不可蝕》を打ち消すことが可能となる。その場合、どちらかのイベント中にフードが肌蹴で如月の素顔が露わとなる描写を追加すること。

## ●クグツ②:剥き出しの鉛

条件:[如月の居場所]へ移動する

登場:(社会:N◎VA、ストリート) 10

### ◆解説

キャストが如月を追い詰め対決するシーン。カット進行となる。

如月本人はデータの的に[精神崩壊]しているものとして扱う。神業によって戦闘前に[精神崩壊]を治療することは可能だが、その場合もガンズAIに体を操られて強制的に戦闘となる。距離やエンゲージは直前の状況から決定すること。

戦闘後、ガンズAIはイレイザーで自身を消去する(戦闘の余波で爆散する)。

### ◆描写

如月の存在に気づいたキミは、とうとう彼をアサクサの路地裏に追い詰めた。

右腕を失った如月は傷口を乱暴に縛ったまま、銃を振りかざし自信に満ちた表情でサメのように口元を歪めている。その言動は常軌を逸し、すでに銃を撃つ行為そのものが目的となってしまっていた。

### ◆セリフ

#### ▼如月丈也

「なんだよ、また的が近づいて来やがった。おいおいおいおい、弾が何発あっても足りやしねえじゃねえかよ。本当にN◎VAって街は最高の射的場だぜ」

「的は撃たれるものだろ。だからオレは的を撃つんだよ。撃って撃って撃って撃って撃って……ケ、ケケケケケケケ！」

(如月を倒した)「もくひょう……うっ……トリガー……ひく……」

(ガンズAが[故障][破壊])「ぎゃああああー！ オレの銃が！ 力が、オレの、オレの力が！ オレの、オレの——ヒ、ヒヒ、ヒヒヒヒ！ ([精神崩壊]する)」

### ◆結末

ガンズAを[故障][破壊]するか如月を[戦闘不能]にすると、カット進行終了。

## ●カタナ:排莢不良

条件:「剥き出しの鉛」の次のシーンに発生

登場:(社会:N◎VA、ストリート) 10

### ◆解説

ジルが最後の理性を振り絞って『カタナ』に連絡してくる。

ガンズBはジルの深層意識にあった「大人への恐怖心」を排除するために行動している。従って標的である「大人」が全滅するまで戦闘行為を止めない。会話では男に対しての感情を強調しているが、女性も目標となっている。

### ◆描写

キミのポケットロンに街頭DAKからのコールが届いた。

電話を取ると血塗れのジルがモニタに映る。如月と同じ狂喜の笑みを浮かべたジルは、キミの姿を確認すると涙を流して怯えた声を上げた。

### ◆セリフ

#### ▼ジル

「よかった、『カタナ』か！？ お願い、助けて！」

「変な男に銃で撃たれて、それで刀を寄越せって。違うんだ、あたしは本当にこんなことをしたかったわけじゃないのに」

「さっきから変なんだ。男が全員あたしに襲い掛かってくるような気がして、あたしを無理やり押し倒そうとるように見えて。嫌な思い出で頭の中がごっちゃになって、体が勝手に動いちゃうんだよ！」

「あ、やだ、やだやだ。なんだか、『カタナ』のことまで斬りたくなってきた。しないよね？ 『カタナ』はあたしにヒドイことなんてしないよね？！」

「お願い、助けて。こんなのもう嫌だよお！」(トロンが壊れて会話終了)

### ◆結末

ジルからの通信が途切れるとシーン終了。クライマックスフェイズとなる。

## ■情報

リサーチフェイズ開始時点に調べることのできる項目は、以下の通り。

- ・須藤貴一(須藤の居場所)
- ・研究所爆破事件
- ・GUNS OF PARTNER
- ・ジル(ジルの居場所)

### ▼隠蔽に使用されている神業

#### 《完全偽装》

研究所爆破事件の真相を隠蔽するために使用されている。

この神業を打ち消した場合、爆破が第三者の陰謀であることが判明する。ただし、後述の《不可蝕》の効果により、《完全偽装》を打ち消しただけでは如月文也の存在に気づくことはできない。

また、《完全偽装》を打ち消さずとも、《不可蝕》の存在に気づき打ち消すことは可能である。その場合、爆破事件はあくまで千早が起こした扱いとなる。

#### 《不可蝕》

如月文也の存在を隠蔽するために使用されている。

この神業を打ち消した場合、情報「如月文也」が調査可能となる。

### ◆須藤貴一(須藤の居場所)

#### 《社会:LA\$T、企業、テクノロジー》

- 7 イワサキグループの兵器開発部門に所属しているタタラである。
- 10 コードネーム“GUNS OF PARTNER”開発チームの主任を務めていたが、計画の凍結と同時に解任されている。
- 13 解任直後に研究所を爆破し、現在逃亡中。千早と連絡を取っていた形跡があり、情報の隠蔽を図ったものと思われる。
- 16 エアボードに乗ったストリートキッズを追いかける姿が目撃された。  
[須藤の居場所]へ移動可能となる。

### ◆ジル(ジルの居場所)

#### 《社会:NOVA、ストリート》

- 7 スラム街やアサクサ境界をめぐらしているストリートキッズの少女。愛用のエアボードを利用した窃盗や、一部好事家へのマネキン行為(売春)によって生計を立てている。
- 10 明るく前向きな性格で芯の強い少女と思われがちだが、意外とセンチメンタルな一面も併せ持っている。
- 13 ジルの目撃情報を得た。  
[ジルの居場所]へ移動可能となる。

### ◆研究所爆破事件

#### 《社会:LA\$T、企業、メディア、テクノロジー》

- 10 LA\$TIにあるイワサキの研究所が爆発・炎上した事件。イワサキグループの隠蔽により、詳しい顛末は明かされていない。
  - 13 須藤が千早と結託して爆破を行ったと推測されている。
  - 16 調べれば調べるほど、須藤と千早が行ったという状況証拠しか出てこなくなる。データの破壊も“GUNS OF PARTNER”だけが徹底されていて、逆に不自然な感じだ。  
爆破事件に関して《完全偽装》されていることが分かる。
- 神業 隠蔽の可能性があることを受け、破壊された保安システムを再度詳しく解析した。すると、爆発の直前に不自然な動きを見せている研究員の姿が発見された。もしかすると内部の社員による犯行かもしれない。謎のゲスト(如月)に関して《不可蝕》されていることが分かる。

### ◆GUNS OF PARTNER

#### 《社会:LA\$T、企業、テクノロジー》

- 10 イワサキで開発されていた武器のコードネーム。何らかの理由により、ほんの数時間前に計画が凍結された。詳細不明。
- 13 武器を制御するのではなく、武器に合わせてユーザーを制御するためのパディを開発するというプロジェクト。結線したユーザーの脳に制御パディのデータを「記憶」させることで、達人クラスの戦闘能力を発揮する。
- 16 試作品として、拳銃タイプと日本刀タイプの2種類が開発されていた。
- 21 脳に書き込まれる制御パディが敏感すぎるが故に、ユーザーが凶暴化してしまう副作用あり。ユーザーはパディの自己防衛システムに引き摺られる形で徐々に正常な判断力を失い、最終的に無差別に攻撃を行ってしまう。これが計画が凍結された主な理由である。

## ■[ジルフラグ]

[ジルフラグ]とは、『カタナ』に関係したこのシナリオ独自の概念である。これはRLが管理し、その存在はエンディングまで公表されない。この[ジルフラグ]の数値によって、『カタナ』のエンディングが多少変化することになる。

『カタナ』がジルのスタイルを認めたり好意を寄せているような演技・演出を行うことで、シーン終了時に[ジルフラグ]が+1される。逆に、ジルのスタイルを否定したりジルを突き放すような演技・演出を行うと[ジルフラグ]は-1される。

これは実際のジルとの会話だけに限らず、独白や他のキャストとの会話であっても裁定の対象となる。たとえば情報「辻斬りの少女」を調べたとき、『カタナ』がジルへの失望を口にすると[ジルフラグ]-1と裁定されるわけだ。

ただし、1シーンに±1しか変化しない点に注意。もしシーン中に両方の発言が見られたときは、どちらの比重が大きかったかRLが判断すること。判断に悩むようなら±0だと裁定してもかまわない。

『カタナ』のエンディング時、この数値が+3以上であればジルのスタイルがカゼ寄りに変化する。一方で+2~-2の間だとマネキン寄りのスタイルとなる。もし-3以下だった場合、ジルは快樂殺人症のカタナと化してしまう。

この処理が煩雑だと感じた場合、RLは[ジルフラグ]を導入せずにシナリオを進めてかまわない。

### ◆ジルのケース

#### 《社会:NOVA、企業、テクノロジー》

- 7 一見、普通のアタッシュケースだが、見た目にして高いセキュリティがかけられていた。間違っても一介の観光客が使用する物ではない。
- 10 イワサキ製のセキュリティバッグで、極秘資料や小型の機密品を運ぶ際に使用されているタイプである。
- 13 須藤貴一が所有しているケースであり、中には研究所から持ち出した“GUNS OF PARTNER”に関する何かが入っている可能性が高い。

### ◆アサクサ連続殺人事件

#### 《社会:NOVA、ストリート、警察、メディア》

- 7 アサクサで突如発生した連続殺人事件。完全に無差別であり、犯人も動機も不明。サイバーサイコによる犯行という見方が強い。
- 10 レポート中のトーキーが被害されるという刺激的な展開が皮肉にも大受けし、大衆の注目が集まっている。犯人の映像をレンズに収めようと、現在多くのトーキーがアサクサに集結しつつある。
- 13 刀を振り回す少女の姿が目撃されている。彼女が犯人に違いない。情報「辻斬りの少女」が調査可能となる。
- 16 被害者の中には銃殺された者もいる。また同時に殺害が行われているという情報もあり、共犯・模倣犯がいる可能性も浮上している。
- 21 フードを目深に被った男が銃を乱射しているらしい。容姿までは分かっているが、外見的特徴から有益な情報が得られるかもしれない。  
[真相フラグ]を取得。

### ◆辻斬りの少女

#### 《社会:NOVA、ストリート、警察、メディア》

- 7 エアボードに乗り、脳制御された日本刀を振り回している少女。警察やトーキーは彼女を犯人だと断定し足取りを追っている。
- 10 同年代の子供はなぜか辻斬りの対象となっていない。殺害現場に居合わせたストリートキッズは、あわや斬られかけたが寸でのところで少女が刀を止めて走り去ったのだと語っている。
- 13 入手した映像から辻斬りの少女がジルであることが確認できる。ジルは何かにかまれたような表情で刀を振るっていた。  
[発端フラグ]を取得。

### ◆如月文也

#### 《社会:LA\$T、企業、テクノロジー》

- 7 須藤の部下であり、先の爆破事件によって他の職員たちと共に死亡した——と思われていた。
- 13 誰もいない研究所で“GUNS OF PARTNER”を装備し、モルモットを撃ち殺している如月の映像が見つかった。そのときの表情は明らかに異常者のそれであった。
- 16 如月はジルの後を追うように犯行を繰り返している。これならば次の犯行現場を予想することは容易だ。  
[如月の居場所]へ移動可能となる。

## クライマックスフェイズ

### ●ハイエナの遠吠え

登場: キャストは全員登場

#### ◆解説

アサクサを舞台とした[社会戦シーン]である。キャスト以外に、ジルと「野次馬トーカー」15人×3トループ(『トーカー』がないときは2トループ)が登場する。このトループは[バックトラップ]や[逆探知]しなくても社会戦攻撃できる。

トループはジルを標的とし、ダメージチャート10番の[盗聴]を与えることを目標に社会戦攻撃してくる。全てのキャストはこの社会戦攻撃に対してリアクションを行うことができる(ジルのダメージを報酬点で減らすことはできない)。

[盗聴]されたままシーンが終了した場合、次のシーンの内容がN◎VA中に暴露され、事件の顛末が全て白日の下に曝されることとなる。ジルはエキストラであるため、社会戦ダメージを受けたままアクトが終了すると[抹殺]される。

これはジルが社会的制裁を受けるだけに留まらず、千早やイワサキの恥部を暴露されることに等しい。RLは、これらの注意点を『カタナ』や『クグツ①』『クグツ②』に十分説明してから社会戦を開始すること。

また『トーカー』のキャストにも、与えられているPSIは特ダネを独占することだと再度確認しておくといいたいだろう。勿論、そうやって独占したネタをどのように報道するかは『トーカー』次第だ。

#### ◆描写

被害者の数が10人を超え、トーカーの報道合戦もいよいよ熱を帯び始めている。早くジルを確保しなければ、事態が悪い方に転がるのが目に見えている。

それはともかくとして、まずはこの周囲をうろついているハイエナどもから先に何とかしなくては……

#### ◆セリフ

##### ▼野次馬トループ

「なんだ、今の音は！？ おい、おまえは向こうを探せ！」

「ちくしょう、いないじゃないか！ 誰だ、ガセネタ掴ませやがった奴は！」

「以上、現場よりマリオネットの〇〇がお送りしました」

(《死の舞踏》など神業で排除)「ぐおっ？！ き、貴様、何者……だ……(気絶)」

#### ◆結末

トループが全滅するか、誰も社会戦攻撃を行えなくなった時点でシーン終了。

### ●魔弾のジル

登場: キャストは全員登場

#### ◆解説

舞台はアサクサの路地裏。暴走状態のジルを発見し、カット進行となる。

距離やエンゲージはカット進行開始直前の状況から決定すること。[移動]の障害となる要素はなく、(運動)を組み合わせなくとも[移動]を試みることができる。路地や粗大ゴミを利用して[状況による修正]を発生させてもかまわない。

ガンズBは撤退を行わず、ガンズBがジルのどちらかが行動不能となるまで戦闘を続ける(例外的にジルの両腕が使用不能になった場合も戦闘終了)。

前シーンでジルが[盗聴]を受けている場合、ここでの戦闘がスクープされ、ジルの姿と事件の真相がN◎VA中に知れ渡ることになる。これらを誤魔化したり隠蔽するためには神業的な手段が必要となる。

逆に[盗聴]さえされていなければ、多少派手に暴れても戦闘を目撃されることはない。ただし、ジルはどんな些細な社会戦ダメージでも[抹殺]されることに注意(後日、ジルが殺人を犯している証拠を掴まれてしまうのだ)。

#### ◆描写

場所はN◎VAアサクサ。陽の光も満足に射さないようなビルの谷間。

死体の跡を辿って、キミたちはとうとうジルを発見した。

彼女は生気の抜けた瞳をキミたちに向けて、威嚇するように足元のエアボードのエンジンを吹かす。右手に提げた日本刀からは、おびただしい量の赤い液体が滴り落ちていた。

トーカーたちを煙に巻き続けるのも限界だ。これ以上被害者が出れば、さすがにSSSも重い腰を上げることだろう。最悪、ブラックハウンドやN◎VA軍が出動する事態にもなりかねない。

今ここで、キミたちは決着をつけなくてはならない。

#### ◆セリフ

##### ▼ガンズB(ジルの口を借りて発言)

「目標捕捉、カット進行ヲ開始シマス。セットアッププロセス準備」

「マルチロックオン。〈※二天一流〉実行(攻撃)

「ロックオン感知。反撃パターン構築」(〈※ブービートラップ〉による回避)

「スキルダウンロード。“藤一剣流”実行」(《死の舞踏》を使用)

(破壊された)「ダメージ深刻。戦闘ゾコウ……フノウ……」

([ジルフラグ]がマイナス)「データノ緊急転送ヲ……開始……シマ……」

##### ▼ジル

「また怖い人たちが来ちゃった。斬らなきゃ」

([ジルフラグ]がプラス)「……『カタナ』、どこに行っちゃったんだらう？」

(ジルを倒した)「あれ、なんでこんなに血がいっぱい？ 『カタナ』？ あはっ、

いつもの『カタナ』だ。夢で……よか……た……([完全死亡]する)」

(ガンズBを倒した)「『カタナ』、来るの遅いよ。……ありがと」

#### ◆結末

ガンズBを[故障][破壊]を含む[戦闘不能]状態にするか、ジルを[戦闘不能]にするとカット進行終了。

## ガンズB(日本刀タイプ)

### ▼技能

運動	3	●●●●
操縦	3	●●●●
知覚	1	●○○○
電脳	5	●●●●●
白兵	3	●●●●
(※ブービートラップ)	4	●●●●
(ドミネート)	4	●●●●
(フリップ・フロップ)	4	●●●●
(※二天一流)	3	●●●●
(カマイタチ)	3	●●●●
(無風剣)	3	●●●●
(見切り)	3	●●●●

### ▼スタイル

カタナ=カタナ◎ ニューロ●

### ▼能力値

理性:7/12 感情:2/12  
生命:6/10 外界:6/10

### ▼ランチ

ニューロ:パペットマスター 1

### ▼武器

・斬魔刀.....電制:一  
攻:斬+4 受:2 射:至近  
**▼防具**  
・オブジェ.....電制:14  
防(殴/刺/斬/爆):2/1/1/3  
**▼ヴィークル**  
・スカイフィッシュ.....電制:14  
攻:殴+4 速:5  
防(殴/刺/斬/爆):1/1/1/2  
・専用機 ※常に(操縦)+3、修正済み  
・D-ST◎RM ※常に(AR3)  
**▼その他**  
・トップロード  
※オートで達成値に+3、使い捨て  
・運転手(ジル相当品).....電制:10  
※データ上、ガンズBがジルとヴィークルを所有

・ライフパス:AI  
※タップを使わずに[デジタルアクション]が行える  
**▼特記事項**  
オブジェは[小型義体]だが、斬魔刀を装備し、さらに[バックインストール]しているものとして扱う。  
**▼行動指針**  
推奨プロット:●●●●  
[フリップ・フロップ]の状態が登場。  
(電脳)(操縦)(ドミネート)(白兵)(※二天一流)(無風剣)で、ヴィークルを操作しながら(演出上はジルを操りながら)、全キャストに1回ずつ白兵攻撃を行う。移動距離2、達成値+5、ダメージ+3。  
ただし、追加攻撃中は[移動]が行えないと裁定する。射程外の対象へは(無風剣)の代わりに(カマイタチ)を組み合わせたこと。  
その他、詳しい戦術は下記参照。

## ジル

### ▼解説

エキストラ。基本的には神業も使用しない。アサクサやスラム街を根城にしているストリートキッズ。金髪碧眼の黒人少女で、年齢は十代前半。屋は観光客から荷物やキャッシュを盗み、夜はその観光客に体を売って生活費を稼いでいる。特にどこかの組織や少年チームの傘下に入ることもなく、フリーランスで活動している。  
エアボードを愛用しており、なげなしのカッパをはたいて様々な改造を施している。また、操作技術もプロのボーダー顔負けなほど。その才能を遊びから本職(窃盗)に至るまで遺憾なく発揮している。無駄にポジティブでとことん金にがめつい、まさにNOVAのストリートキッズの見本のような少女だが、打たれ弱い一面もある。その感情がガンズにより暴走してしまい、今回の事件を引き起こした。

### ▼スタイル

マネキン=マネキン◎ カゼ●

### ▼能力値

なし

### ●ジルの扱いについて

ガンズBはゲストであり、エアボードに乗ったジルがその手に[装備]している状態で登場する。ただし、データ上はジルもボードもガンズBの装備品に過ぎない。そのため、ジルへの攻撃は(ガンズBの装備品への攻撃であるため)(※ブービートラップ)の対象になる、と処理する。  
キャストは攻撃の対象として、ガンズBとジルのどちらかを選ぶことができる。ジルはエキストラであるが、クライマックス中に限り、ゲストのようにチャートでダメージを管理すること。クライマックス終了までにダメージが治療されなければ、そのダメージは[完全死亡][精神崩壊][抹殺]に変わる。  
その代わりに、如月のように最初から[精神崩壊]しているわけではない、戦闘終了後にガンズBがイレイザーを使用することもない。

### ●戦術について

戦闘では、ガンズBがジルを操り華麗なエアトリックを交えて連続攻撃を行う。ただし、データの(ドミネート)しているのはヴィークルである点に注意。(カマイタチ)はエアボードによるヒット&アウェイと演出したり、周囲の壁や障害物を壊してその破片で攻撃を行っているという演出するといえよう。  
攻撃を受けた場合、(電脳)(操縦)(ドミネート)(※ブービートラップ)でジルごと[避け]を行う。達成値+5。成功した場合、手札から反撃を行う。  
ボードが使用不可となった場合は、エキストラのジルを(運動)(ドミネート)で操作し(攻撃・防御)する。そのときはガンズの[避け]のみを優先すること。  
ちなみに、連続攻撃はそれぞれのキャストに1回ずつしか行わない。トーキーがいない場合、通常の攻撃1回+追加攻撃2回だけとなる点に注意。

## 如月丈也(+ガンズA)

### ▼技能

運動	2	●●●○
射撃	4	●●●●
知覚	2	●●●○
(ハンザイ)	4	●●●●
(ダーティファイト)	4	●●●●
(凶刃)	4	●●●●
(ファニング)	3	●●●●

### ▼武器

・P11(ガンズA相当品).....電制:21  
攻:殴+7 受:一 射:近  
※ガンズAとして扱う  
・ガンサイト.....電制:15  
※常に(射撃)+1  
・スマートスコープ.....電制:12  
※マイナーで次の(射撃)+2

### ▼スタイル

クグツ レッガー● カプトワリ◎

### ▼能力値

理性:7/13 感情:2/12  
生命:7/12 外界:5/11

### ▼防具

・アーマージャケット.....電制:12  
・ガードコート.....電制:15  
防(殴/刺/斬/爆):4/0/2/6  
**▼その他**  
・オールインワン  
※リンクス2、スリーアクション08、タイプD2  
・追加マガジン  
※十分な数を所持しているものとする  
・SSSD II.....電制:18  
※AR0からAR1、全能力+1、1シーン1回

### ▼特記事項

ガンズAIはただの装備品(P11)として扱う。そのためガンズBのようにダメージチャートは使用しない。(斬魔剣)などで[故障][破壊]することは可能。  
**▼解説**

「ヒ、ヒヒ! 的だ! 的がいついばいあるぞ!」  
元ははかないイワサキのタタリにすぎなかったが、ガンズと結線し、制御バディを植え付けられたが故にサイバーサイコ化してしまった。  
しかし、肉体があまりにも貧弱なため、ガンズAのスペックを十分に発揮できていない。  
**▼行動指針**  
推奨プロット:●●●○  
マイナーでスマートスコープ使用。メジャーで(射撃)(ダーティファイト)(凶刃)(ファニング)で、[対象:範囲]に射撃攻撃を行う。達成値+3、ダメージ+3。また、命中したら(ガンズB)に有利なシートを指定して[バックファイア]&アウト終了まで継続。防御もスマートスコープ使用からの(運動)(射撃)で[避け]を行い、達成値+3。アクションランクが切れたらSSSD IIを使用する。

## ガンズA(拳銃タイプ)

### ▼解説

エキストラ。戦闘終了後、イレイザーを使用して自身を完全に消去する。これは戦闘の余波で分解したと演出し、神業を使用しなければ防げない。  
ガンズとは、ユーザーの記憶野に入り込み、その肉体を制御することで反応速度を上昇させ、全体的な戦闘能力の底上げを行うバディである。  
ただ、攻撃目標の選択や闘争本能の制御、そしてシステムの自己保存本能など、ガンズとしてのプログラムとユーザーの自我を上手く仕分けることができず、最終的にユーザーの精神を蝕んでサイバーサイコ化させてしまう欠点がある。  
繰り返しガンズを使用し続けた如月の脳内には、既にガンズのほぼ完全なバックアップデータが生み出されており、神業的な手段を用いなければこれを消去(忘却)させることはできない。

### ▼スタイル

なし

### ▼能力値

なし

## 野次馬トーキー

### ▼スタイル

トーキー4レベルトループ

### ▼能力値

理性:6/9 感情:7/9  
生命:5/7 外界:5/7

### ▼技能

社会:NOVA	4	●●●●
社会:ストリート	4	●●●●
社会:メディア	4	●●●●
(スクープ)	2	●●○○

### ▼解説

「こちら、現場の〇〇がお送りしています」  
アサクサ連続殺人事件に釣られて集まってきたトーキー集団。報道のためなら、犯罪者(容疑者)

やXランクの人権など毛ほども気にしない。

### ▼行動指針

推奨プロット:●●●●  
[報酬点]は所持していない。  
(ガンズBではなく)ジルを対象として社会戦攻撃を行う。対象はジルのみであり、攻撃を受けたとしても[バックトラップ]や[盗探知]は試みない。  
このとき、(社会:メディア)が使用可能なら(スクープ)を組み合わせて[対決:不可]にする。ダメージはチャート10番の[盗聴]を積極的に狙うこと。  
基本的に防御は行わず、社会戦ダメージを受けた場合は[人数]が減少する。また、全滅するまで撤退もしない。  
ただし、この次のシーンで戦闘が発生する点に注意。エースやジョーカーなどのカードは、社会戦では使用せずに温存しておくことを推奨する。

## エンディングフェイズ

## ●クグツ②:スピード・リロード

## ◆解説

事件終了後、服部半蔵に報告を行う。

クライマックス後の状況次第で半蔵の対応が異なるが、よほどのミスを行わない限り『クグツ②』が悪評を受けることはない。なぜなら、イワサキ内部の管理体制の甘さと調査委員会の怠慢こそが今回の事件の主な原因だからだ(《完全偽装》や《不可蝕》されていたから仕方ないのだが)。

そのため、基本的に事件が表沙汰にならないよう処理すれば、半蔵は『クグツ②』の仕事ぶりを評価することだろう。ガンズと須藤の回収に成功したなら、嬉しい誤算だと最大級の賛辞を送ってくれるに違いない。

## ◆描写

そして、今回の短い任務が幕を下ろした。

キミの胸にはどんな想いが渦巻いているのだろうか。ともかく、戦士には休養も必要だ。今は休息を取ることがキミの仕事なのだから。

900秒後、再び秘匿回線が鳴り響くことをキミはまだ知らない。

## ◆セリフ

## ▼服部半蔵

「如月の件を含め、情報が錯綜してしまったのはこちら側の管理ミスだ。その状況下でよく任務を果たした。まずまずの仕事ぶりだ」

「千早のサムライを仕留め損ねたか。なに、再び相まみえることもあるだろう」(イワサキの被害について)「損害は気にするな。損得を勘定するのは上の、光に生きる者たちの仕事だ。我々は、我々に課せられた使命を果たすのみだ」

「ご苦労——次の任を待て」

## ◆結末

半蔵との会話が終了し、『クグツ①』との関係を整理したところで再び電話が鳴る。『クグツ②』がそれに出ることでシーン終了。

## ●クグツ①:タクティカル・リロード

## ◆解説

事件終了後、小上紫乃に報告を行う。

クライマックス後の状況次第で紫乃の対応が異なる。ただし、こちらは『クグツ②』とは異なり一定の成果が求められる。ガンズを確保する(もしくは破壊された物を神業的手段で復元する)、イワサキの失態をメディアに暴露して評価を下げる、などの行動を達成する必要がある。『クグツ②』は作員の一人に過ぎないので、それを退けた程度では評価に繋がらない。

また、上記の例でも『クグツ②』の隠蔽工作や『トーカー』の報道によって評価が変わるはずだ。RLは、クライマックス終了前に(《脳》)や(《社会》)による対決で諜報合戦を行わせ、その結果によってエンディングを調節するといいたい(話し合いで解決するなら、勿論それに越したことはない)。

このとき、《完全偽装》や《暴露》はとも強力な切り札となる。ただ、他キャストとのエンディングの兼ね合いもあるため、できるだけクライマックス終了までに使用させるようそれぞれのキャストに指示を出すこと。

## ◆描写

そして、今回の短い任務が幕を下ろした。

しかし、一度構えた照準を簡単に外すことなどできない。紫乃はおしとやかな微笑みを浮かべながら、キミの脳に新たな指令を転送してきた。それは件の、LA\$TIにある爆破された研究所。

キミの仕事は、まだ終わっていない。

## ◆セリフ

## ▼小上紫乃

「お疲れさまでした。結果はまずまず、と言ったところでしょうか？」

「イワサキのニンジャ。まあ、放っておいても大した火種にはならないでしょう」(事件やガンズの今後の扱いについて)「事後処理は上層部と二班の仕事ですわ。わたくしたちは、わたくしたちに与えられた任務を処理しただけです」

「さてそれでは、わたくしたちに与えられた、次の任務ですわ」

## ◆結末

紫乃との会話が終了し、『クグツ②』との関係を整理したところで研究所への工作任務が言い渡される。『クグツ①』がそれに反応することでシーン終了。

## ●トーカー:非暴力コミュニケーション

## ◆解説

オープニングのように、アルファ=オメガとアサクサでデートをしている。

『トーカー』が特ダネをあげることができたか、またそれをどのように(芸術:アレンジ)して《暴露》したのか、によって展開は異なる。アルファ=オメガと歩きながら、今回の事件の顛末を街頭ニュースの形でまとめるといいだろう。

## ◆描写

相も変わらず平和なアサクサの屋下がり。キミの隣には、なんだかもうツッコミを入れるのも面倒だが、アルファ=オメガが付きまわっていた。

## ◆セリフ

## ▼アルファ=オメガ

「ど、どう? 今日の私、どこか違わないですか?(前髪が微妙に短い)」

「まったくもう、貴方っていつも鈍感なのですから! (素に戻って)……でも、この程度の変化じゃ普通気づかせんよな?」

(プシューっと頭から煙)「ん〜、“ツンツン幼馴染”ってムズかしいのです」

(目が合うと顔を赤らめてはにかむ)「えへへへへ〜♪」

## ◆結末

アルファ=オメガと会話をし、『トーカー』の記事がN◎VAにどのような変化をもたらしたのか確認したら、シーン終了。

場合によっては、また新しい事件に巻き込まれても面白いかもしれない。

## ●カタナ:ジャム・クリーニング

## ◆解説

事件後の『カタナ』とジルとの交流を描く。

クライマックスの結果によって、ここでの展開は大きく変化することになる。以下は、ジルが生きて尚且つ[抹殺]されることもなかった場合の結末である。

なお、『カタナ』のエンディングは社会戦や戦闘の結果だけでなく、《完全偽装》や《暴露》の内容にも大きく影響されてしまう。そのため、クライマックス終了前にキャスト同士でどんなエンディングにしていくか調整させるといいだろう。

なお、ここでは[シルフラグ]に応じて3種類の描写を用意した。もしRLが[シルフラグ]を採用していたなら、それに合わせて結末が変化することになる。

## ◆描写A([シルフラグ]+3以上)

あの事件から数日が過ぎた。

ジルはまるで普段と変わりなく、エアボードで遊びにやってくる。あれだけの事件に巻き込まれたというのに、タフというか懲りてないだけというかだ。

キミが呆れていると、ジルは太陽のような笑顔を見せた。

## ▼ジル

「やっほー『カタナ』、まだ生きてたかー?」

「10分前のことなんて忘れたね。細かいこと気にしたら脳がいくつあっても足りないぜ? なんだって、ここは“災厄の街”なんだからさ」

「『カタナ』って相棒募集してたりしない? ……まあ、なんとというか、もうちょっと真っ当な手段で金を稼いでみようって気になっただけだよ」

## ◆描写B([シルフラグ]-2以上+2以下)

あの事件から数日が過ぎた。

事件がジルに与えた傷跡は大きかった。どんなタタラの心療治療も効果がなく、どころかキミ以外の大人とは会話すらまともに出来なくなってしまっていた。

キミの隣には、すっかり同居人となってしまったジルが抱きついている。

## ▼ジル

「……行かないで」(しがみついて離れようとしていない)

「『カタナ』と離れたら、私、また人を殺しちゃいそうな気がしちゃうの」

「こんな私でも、『カタナ』は守ってくれる?」

## ◆描写C([シルフラグ]-3以下)

あの事件から数日が過ぎた。

ジルはまるで普段と変わりなく、エアボードで遊びにやってくる。いや、ジルの背中には不釣り合いな日本刀が背負われていた。

DAKからは凄惨な事件のニュースが聞こえてくる。武器を手に取りサメのように笑うジルの横顔を、キミは見逃すことができなかった。

## ▼ジル

「この刀? 護身用だよ、護身用。結構高かったんだぜ?」

「『カタナ』の武器ってさ、なんか切れ味よさそうだよな……」(サメのように笑う)

## ◆結末

ジルとの会話が終了したらシーン終了。

お疲れ様でした。

ポストアクトに移行してください。